

経済学部

にしやまのりゆき
西山教行／経済学部：フランス語教育学、初級中級フランス語、国際コミュニケーション担当

自己紹介はHPをご覧ください。

<http://www.ms.econ.niigata-u.ac.jp/~jnn/>

『Ci vediamo パリでまた逢おう』 一般書 ジャン＝フランソワ・ゲリー
新潟日報事業社 1,429円

本書は、新潟に暮らすスイス人写真家による写真集である。フランスに暮らす母親が一昨年秋に死去したため、葬儀などのために渡仏した時に撮影した写真より構成されている。

写真集は自宅での夕食に始まり、新潟空港、ソウル、機内を経て、母親の暮らしていたアンジェへと写真家の足取りをたどっている。アンジェでは思い出の品々や母親の慣れ親しんだ風景をファインダーに焼き付け、その後、写真家はパリに向かう。リュクサンブール公園や何気ない街角、そして異母姉の営むカフェの光景。しかし、ここで観光客の愛でるパリを想像してはいけない。写真家のまなざしはノスタルジーにも似て、喪った母親への愛惜の思いにあふれるもので、日常の中に潜む非日常的な一瞬を拾い上げている。手を振りながら自分の姿を写しこんだ自画像のようなカットがたびたび現れる。あたかも、地上の暮らしを離れてしまった母親に最後の別れを告げているようでもある。

「パリでまた逢おう」と写真家は呼びかけるが、母親と再会することを願っているのか。あるいは、未知なる読者との出会いに思いを寄せているのだろうか。パリの下町にあるカフェでカウンターにもたれながら、ビールを片手に、私たちを待ちかまえている写真家の姿が見えてくるようだ。